

中国における危機言語の認定基準及びその具体例

黄行、包联群（中国社会科学院民族学・人類学研究所、大分大学）

近代化とグローバル化の進展により、中国においては少数民族言語と中国語方言の一部がすでに危機的状況にある。そのため、文字言語の制定と管理を担当する中国教育部、国家民族委員会などの中国政府関連部局では、危機言語を救い、そしてそれを保護する一連の政策と計画を制定した。危機言語を救い、保護する仕事というのは系統的なプロジェクトであり、危機言語の認定基準、少数民族危機言語の認定、危機言語保護の政策実施、危機言語の調査と保護、その規範作り、マルチメディアコーパスの開発など、どれも重要な多岐の分野に及ぶ。

現在、危機言語を認定する国際標準（例えば、UNESCO & SIL International が提案した標準）を参考にしたうえで、中国の国内事情を勘案し、中国における危機言語の基準に関して、調査研究と論証及び制定などの作業を行うことが望まれる。本発表では、まず、中国における危機言語の認定基準の主要指標及びそれに関連する要因、次に、中国における多様な種類の危機言語の実情を紹介する。即ち、言語教育の現状、家庭の言語及び言語継承などである。

キーワード：危機言語、認定基準、言語使用、中国国内事情